三者(生徒・父母・教師)フォーラム 研修会

新生弥富に向けての教育討論会 午前の部

新カリキュラムに向けて授業実践

12月10日、三者フォーラム研修会が企画され、午前の部に「新カリキュラムに向けての授業実践」・午後の部に「新弥富教育の討論会」が実施された。

午前の部の授業実践では、渡邉実恵先生による「白い粉の正体は？」と題する実験。この実験で興味を引き出し、発展させていくのが目的の未来型授業。その内容は、参加生徒・父母・教員を4・5名の8グループに分け、提示した4種類の粉が何かを化学的に判断するために共同学習を3者で行うもの。

4種類の粉を見た受講者は指示前早々に検証を始める。その後、先生からの指示を受け、舐めたり、水に浸けたりと見分ける方法を班毎に予想し、発表がなされた。

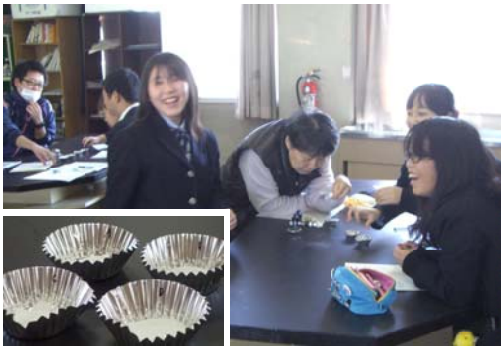
燃やす、熱する、舐める、溶かす、大きさを調べる、リトマス紙を利用する、臭いなどなど多彩な試みが発表され、その中でも主婦の感でもうすでに分かってしまった班も。また、見た目で判断するも細かい区別がつかず、少量の水に溶かしつつ…と本格的調査に意欲的な班も。

発表した次には、実際に判別する為の取り組みに移行。各班思い思いの方法で実験をスタートする。

実験の様子は班毎に様々で、どんどん実験を進めてしまう班員に対し、「実験の記録をとってから」と冷静にアドバイスする班員もおり、共同学習の役割分担が自然に出来上がっていた。また主婦班は、主婦の感で全ての正体を予想、根拠を付けるための実験もいち早く終了させた。

終わったあとは他の班にアドバイスし、生徒同士で教え合うという共同学習も実施された。

最後に実験の興奮冷めやらぬ中、結果発表。全班が何らかの発表となった。



本時での内容

1、生徒・父母・教員混合クラス

2、本時の目的

日常生活でよく使うものの中には目で見ただけでは区別しにくいものがあり、間違って使用してしまうことがある。そんな時に、物質をどう判断するのか、方法を考え実践する。

3、本時の展開

1）本時の目標

・白砂糖、デンプン、食塩、グラニュー糖の4種類の白い粉末の区別をする方法を考え実践。
・区別する方法として化学的に判断する。
・共同学習におけるコミュニケーション能力を身に着ける。

2）本時の手順

①調べ方を考え、結果を予想する
②実験方法と結果予想を発表する
③実験し、記録する
④実験方法と結果発表をまとめる
⑤実験結果の発表と検証
⑥班での実験が正しかったか検討
⑦粉末4種類の確認

授業後の意見・感想

授業後、意見交流を行ったが様々な意見・感想が出された。それを紹介する。

●実験は実験であり、経過から記録のまとめを行い、失敗例も含めてまとめる力を引き出すことが探究基礎である(教)

●社会の授業でも予想のところが大切。これが知りたいの始まりである。仮説を立てて実験することで、実験結果が出た時の喜びがある。もっと予想に時間をかけないと(教)

●実験をして結果が出る、次はどんな実験をしたいのか、というつながりができる(父母)

●予想を頭の中で組み立てた。料理を作るにしても経験を積んでうまくなっている。昔授業で習った塩に関しても覚えている。一つ一つ小さなことでも生きていく上で役に立っている。学校の授業をしぶしぶ聞いてもどこかで役に立つことがある。自分の引き出しを増やすことが大切。(父母)

●共同作業をやる中で、「『分からない子』がどうして分からなかったのかが分かった。『分からない子』に、こうやって教えたら分かってもらえることが分かった」という発言があり、いろんな生徒が混ざった中で共同学習を行うことで、お互いが成長していくという確信をもった。(生)

みんなで考える良き機会となった

●日本の教育は競争をしてきた。他人を蹴落とす【競争的】な授業から、お互いが高め合っていく【協同的】な授業に変えていくことを考えている。この授業で共同学習のよさを感じる時間となった。(教)

●社会に出てもグループで作業をしている。お互いが話し合うことでお互いが理解でき、グループに理解が広がっていく(父母)

●病院実習では1人の患者さんに対し、グループで考え援助している。共有することが大事である。(生)

●先ほどの授業で、最後に答えを示して仕舞いますよね。答えを出してしまうとそこで考えがストップしてしまうと思います。(父母)

●教員というものは道(正解)を促してしまい、生徒の視野が広がらない。道を促さず、そこから生徒が疑問を探究していく事が本当の探究である。(教)

大いに議論がなされ様々な意見が出されたが、教員も概念から逸脱することも大切であることを実感した。